# [TWSチュートリアル]
# 情報セキュリティ技術が支えるデジタル社会のトラスト
# ～不確実性、検証可能性、そして適切な依拠～

島岡政基(セコム株式会社IS研究所)



© 2026 SECOM CO., LTD.

# 概要

- 不確実性：なぜトラストが必要か
- トラストとは何か：基本モデルと構成要素
- 検証可能性：システム信頼とセキュリティ技術
- 適切な依拠：人はシステムをどう信頼するか
- トラスト研究の俯瞰



© 2026 SECOM CO., LTD.

# 不確実性

## なぜトラストが必要か

© 2026 SECOM CO., LTD.

# 顔の見える関係から、見えない相互作用へ

## 従来のアナログ社会



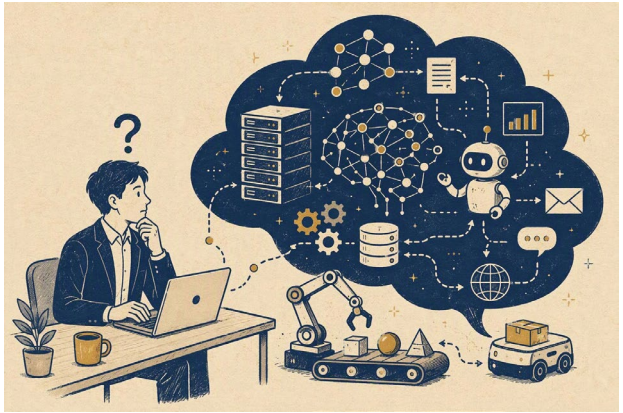
対面で相手を理解する

**紙・印鑑・署名を確かめる**

組織・資格・専門家を頼る

慣習と継続的な関係に依拠する

## デジタル社会



相手が人間とは限らない

**データや処理過程が見えない**

AIやサービスへ判断を委ねる

**大規模・高速・自律的に相互作用**する

貨幣や制度は、従来から「知らない相手との関係」を支えてきた

(一方で、アナログ社会を前提とした要素も少なくない)

**デジタル化により、規模・速度・自律性の面で不確実性が拡大**

図版の一部に生成AIを利用(概念図)

© 2026 SECOM CO., LTD.

# トラストが必要になるときとは？

**すべてを確認したり予測することはできないが、
それでも何らかの依拠を選択しなければならない時**

## 不確実性

相手の状態・意図・将来の
振る舞いを把握しきれない




## 期待

相手が一定の役割や
約束を果たすと見込む

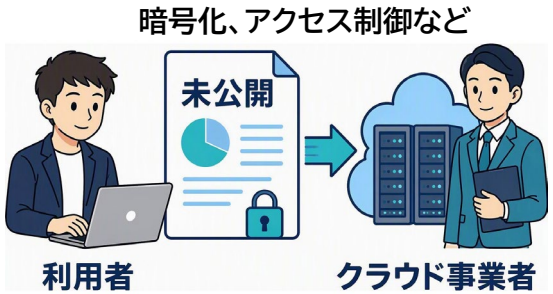
## 脆弱性・リスク

期待が外れると、
自分に損失や不利益が及ぶ

## 依拠の選択

不確実性が残る中でも
依拠（契約・認可・開示・
委任・利用など）を選ぶ

**いわゆる
「リスクを賭した前払い」**




**期待はどこから生まれてくるのか？**

依拠(rely)：対象を頼り、判断・行動を委ねる行為

図版の一部に生成AIを利用（概念図）

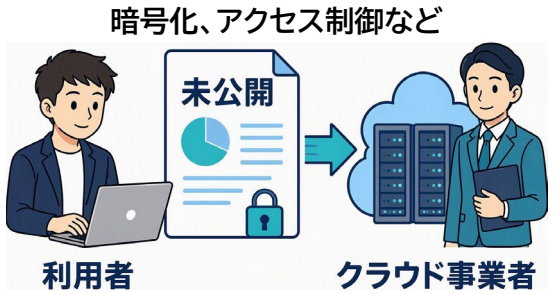
© 2026 SECOM CO., LTD.

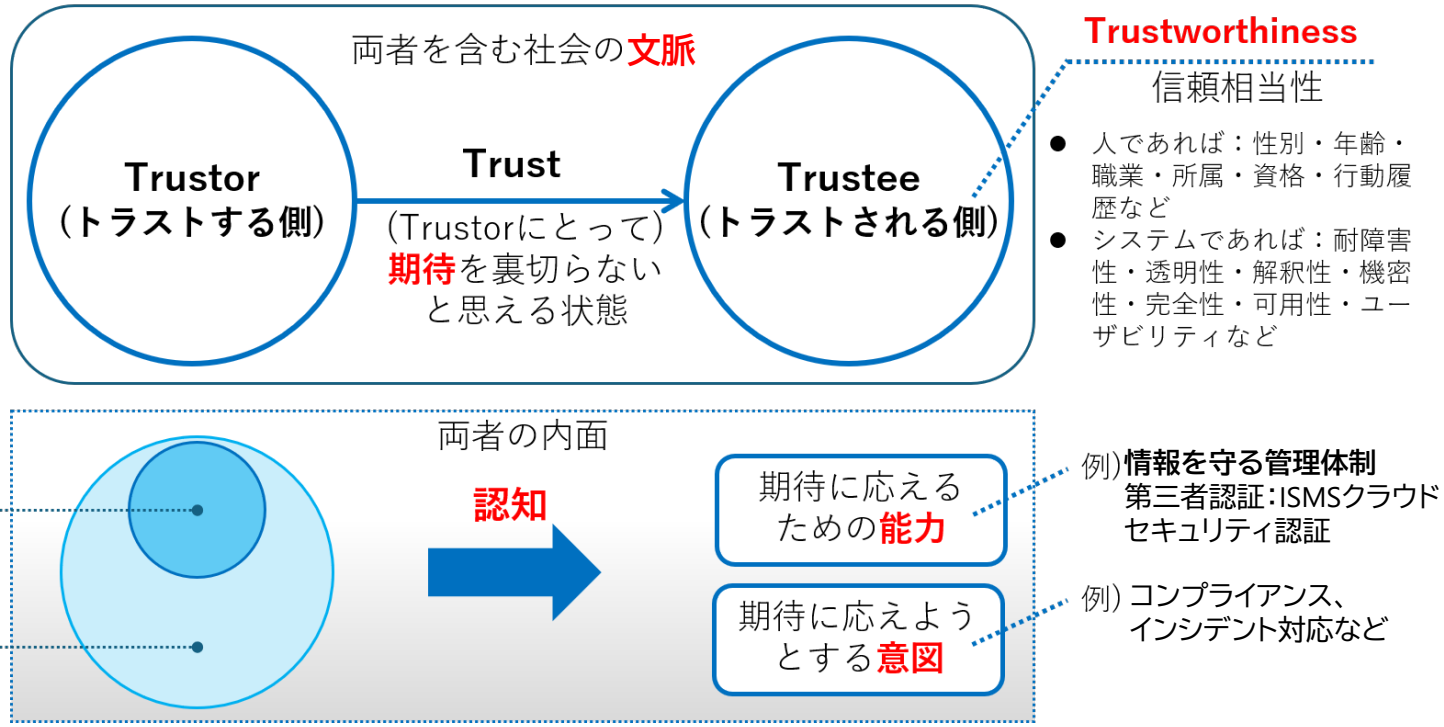
# トラストとは何か

## 基本モデルと構成要素

© 2026 SECOM CO., LTD.

# トラストの基本モデル




**期待：** Trusteeが一定の役割や約束を果たすと見込むこと

**能力：** Trusteeがその期待に応えるための力や特性

**意図：** Trusteeが期待に応えようとする誠実さや善意

**認知：** TrustorがTrusteeの能力や意図をどう認識しているか

**文脈：** 両者の関係性や状況

図版の一部に生成AIを利用（概念図）

© 2026 SECOM CO., LTD.

# トラストの構成要素(1)

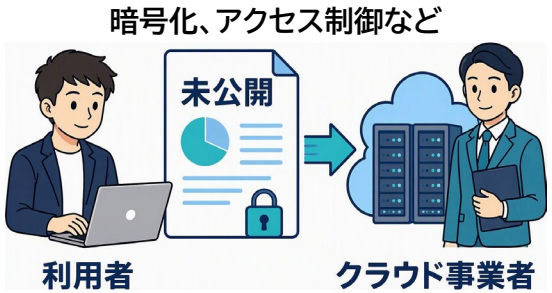






## 規定因(信頼を左右する要因)

- 能力:知識や能力、専門性など
- 意図:誠実さ、説明責任、期待に応えようとする
  意欲・動機付けなど




## 文脈

- 両者の関係性や、両者を含む社会の文脈
- 関係性や状況が変われば、期待する内容やどこまで信頼できるかも変わる
- 例) サークルの先輩から後輩にお金を貸す、上司が若手をリーダーに抜擢する　など

## 信頼相当性(Trustworthiness)

- 一般に、信頼に応えようとするTrusteeが備える性質
- Trustorは、これらを手掛かりとして、信頼するか否かを判断する

図版の一部に生成AIを利用(概念図)

© 2026 SECOM CO., LTD.

# トラストの構成要素(2) ～期待とコミットメント～

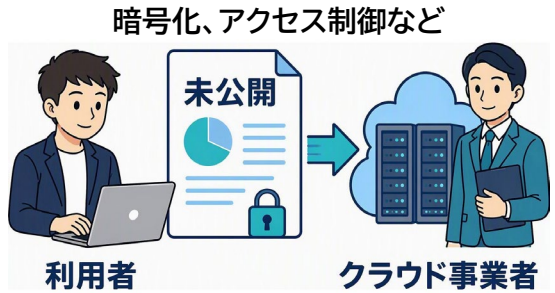


## 期待

- 相手が役割や約束を果たすはず、というTrustorの見込み
- その裏には、Trusteeの「期待に応えよう」とする意思（コミットメント）がある

## コミットメント

- Trusteeが、Trustorとの関係を保とうとする意思




Trusteeが期待に応える理由（動機付け）は3種類

内的：応えることが自分の利益になる

外的：法律や制度で縛られている

混合的：法律以外の社会規範(世間の目、慣習など)がある

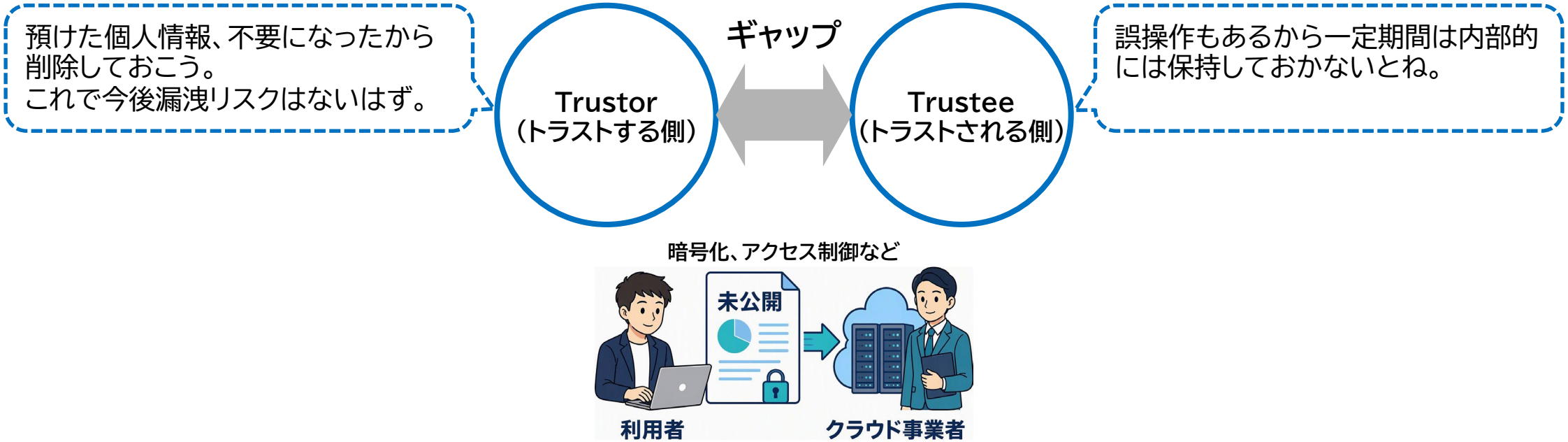
図版の一部に生成AIを利用（概念図）

© 2026 SECOM CO., LTD.

# トラストの構成要素(3) ～トラストの非対称性と認知～

## 認知

- Trustorが、相手や文脈をどう見ているか、相手に何を期待しているか
  - 両者の間には、3つのずれが生じうる：①文脈、②相手の能力・意図、③期待の中身
- 認知が実際より高すぎれば過信、低すぎれば過少信頼になる
  - 信頼の失敗の多くは、こうした認知のずれから生じる




図版の一部に生成AIを利用（概念図）

© 2026 SECOM CO., LTD.

# 検証可能性

## システム信頼とセキュリティ技術

© 2026 SECOM CO., LTD.

# 人格信頼とシステム信頼

## 人格的信頼

- 他者の人格に対して形成される信頼
- 個別的学習が必要⇒負荷大
- コントロールが容易
  ⇒信頼状況に対する改変の余地が
  広く残されている
- 対面的コミットメントを必要とする
  ⇒相手の誠実さ等が関係する

## システム信頼

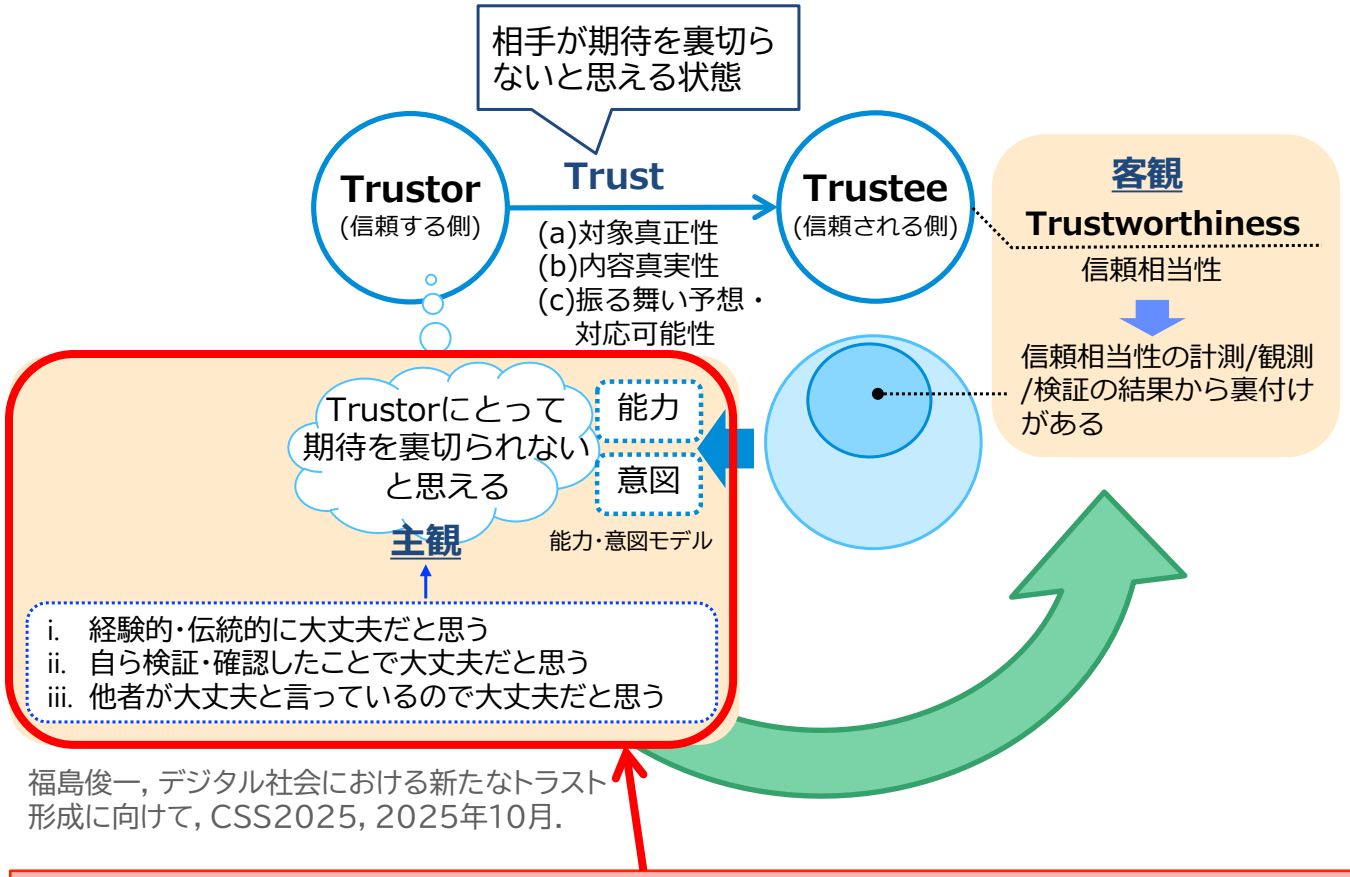
- 抽象的システムに対して形成される信頼
- 学習は容易かつ自動的
- (社会システムによる)コントロールを
  強く受ける⇒改変の余地はほとんどない
- 非対面的コミットメントにおいて機能する
  ⇒システムに関する不確実な知識に
  ついての正しさを信じることに基づく

(抽象的)システムのひとつが公権力などの**専門家システム**。
(もうひとつは貨幣制度などのコミュニケーションメディア)

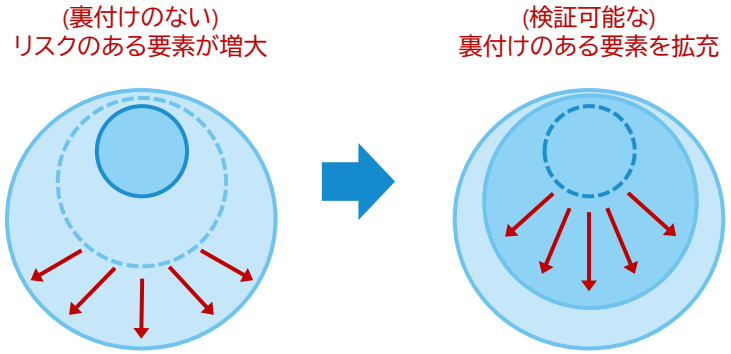
N. ルーマン, *信頼– 社会的な複雑性の縮減メカニズム*, 勁草書房, 1990.
石川博康, *「信頼」に関する学際的研究の一動向*, COE ソフトロー・ディスカッション・ペーパー・シリーズ, 2004.

© 2026 SECOM CO., LTD.

# トラストには主観と客観の両面がある




福島俊一, デジタル社会における新たなトラスト形成に向けて, CSS2025, 2025年10月.




**主観の規定因を明らかにし、如何に客観的要素に変えていけるか**

- **計測可能な、あるいは計測すべき要素を明らかにする研究**
- **当該要素を計測可能にする技術の研究**

© 2026 SECOM CO., LTD.

# デジタル社会のトラストの3側面

- デジタル空間において、アナログ社会よりも不確実性が高まる3つの側面

戦略プロポーザル：デジタル社会における新たなトラスト形成, CRDS-FY2022-SP-03,
国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター, 図5-1より, p.35, 2022年9月.




| トラストの3側面 | 現状の社会的よりどころ | デジタル社会の課題 |
|---|---|---|
| **対象真正性**<br>本人・本物であるか？ | 印鑑・サイン、身分証・鑑定書、デジタル認証・生体認証など | 真正性保証の対象が拡大、デジタル特有の偽造・偽装・改ざんの可能性も拡大。トラスト基点の信頼性担保にも課題あり。 |
| **内容真実性**<br>内容が事実・真実であるか | 事実性は証拠写真・監視カメラ映像など、学説は査読性による学術コミュニティ合意など | AIによるフェイク生成が高品質化したため、写真・映像の証拠性が揺らぎつつある。そもそも絶対的真実・事実は定まらず、ファクトチェック可能な対象は限定的。 |
| **振舞い予想・対応可能性**<br>対象の振る舞いに対して想定・対応できるか？ | 人的行為・タスクについては契約・ライセンスなど、機械・システムの動作については仕様書など | ブラックボックスAIでは動作仕様が定義できず、常にその動作を予見できるわけではない。説明可能AIも近似的説明であり、保証にはならない。 |

技術のみならず社会制度・慣習等により複合的に形成されてきた。
普段は無意識・暗黙裡によりどころとしているものも少なくない。

これらの検証可能性を
どう実現していくべきか？

© 2026 SECOM CO., LTD.

# 検証可能性

- 客観的証拠にもとづいて第三者が画一的に真偽を判定できる能力

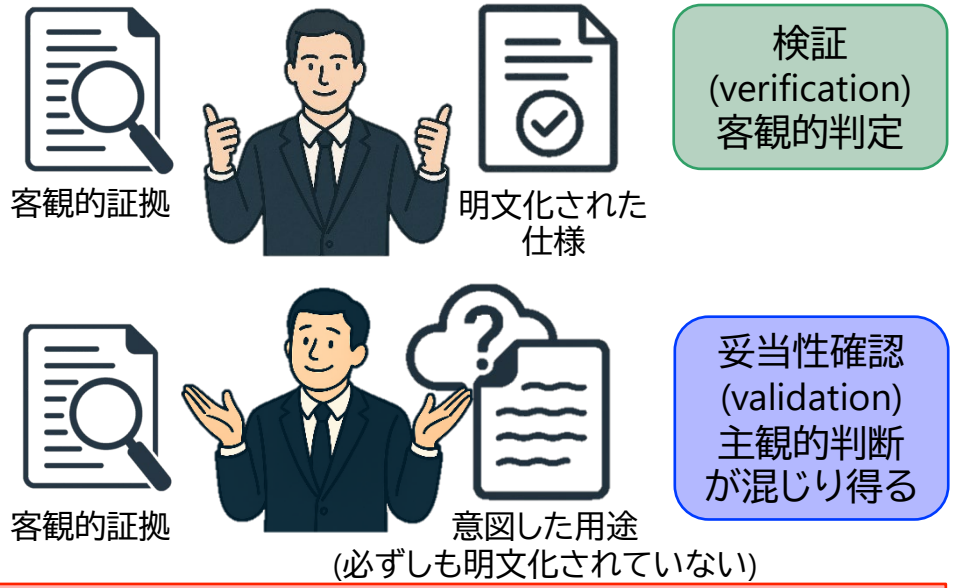
- 暗黙的・主観的な要素を排除し、誰が確認しても同じ結果が期待できるようにする。
- デジタル社会では、証拠の電子化、処理のブラックボックス化が進むため、第三者による検証の重要性が高まる。

【V&V問題】狭義にはVerificationとValidationは明確に定義の違いがあるが、一般的には両者含めて扱われることが多い

**検証（verification）：明文化された仕様**に適合していることを、客観的証拠を用いて確認すること

妥当性確認（validation）：**意図した用途**に適していることを、客観的証拠を用いて確認すること

— ISO 9000:2015(意訳)




検証可能性を高めることで機械処理を可能とし、
人間系の介入（妥当性確認）を必要とする範囲を最小化する

図版生成の一部に生成AIを利活用しています

© 2026 SECOM CO., LTD.

# 適切な依拠

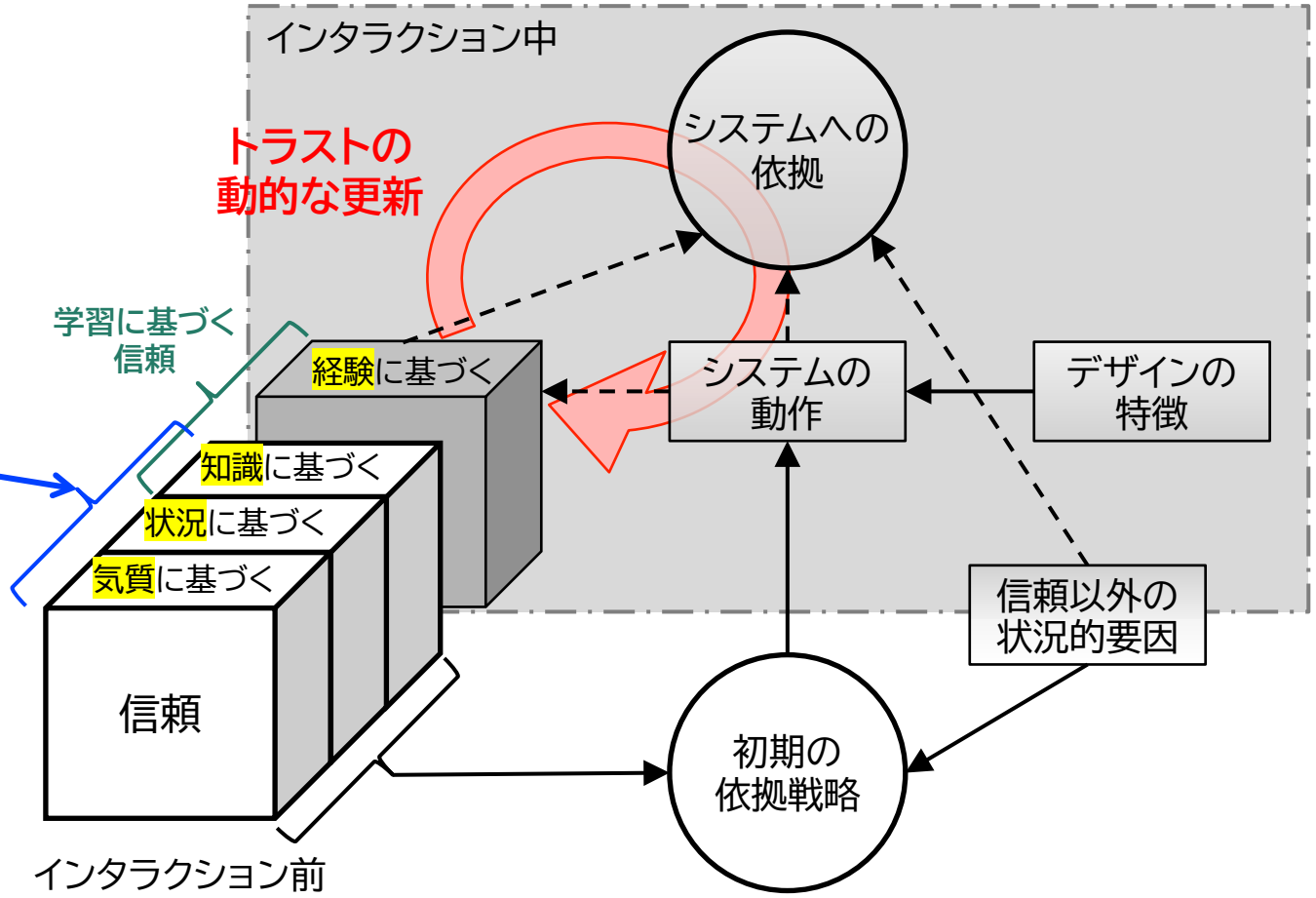
## 人はシステムをどう信頼するか

— 検証できても、人が適切に頼れるとは限らない —

© 2026 SECOM CO., LTD.

# Trust in Automation

- 初期信頼の形成要素は、気質、状況、学習(知識・経験)の3層に整理できる
- インタラクション前の初期信頼は、インタラクションを通じて動的に更新され、システムへの依拠(reliance)に反映される




**初期信頼の形成要素**

| レイヤ | 内容 |
|---|---|
| 知識・学習<br>(Learned Trust) | システムとの実際の相互作用を通じて形成・更新される信頼 |
| 状況<br>(Situational Trust) | 文脈や環境による一時的な信頼の変動 |
| 気質<br>(Dispositional Trust) | 性格・文化・年齢など個人の固定的特性 |

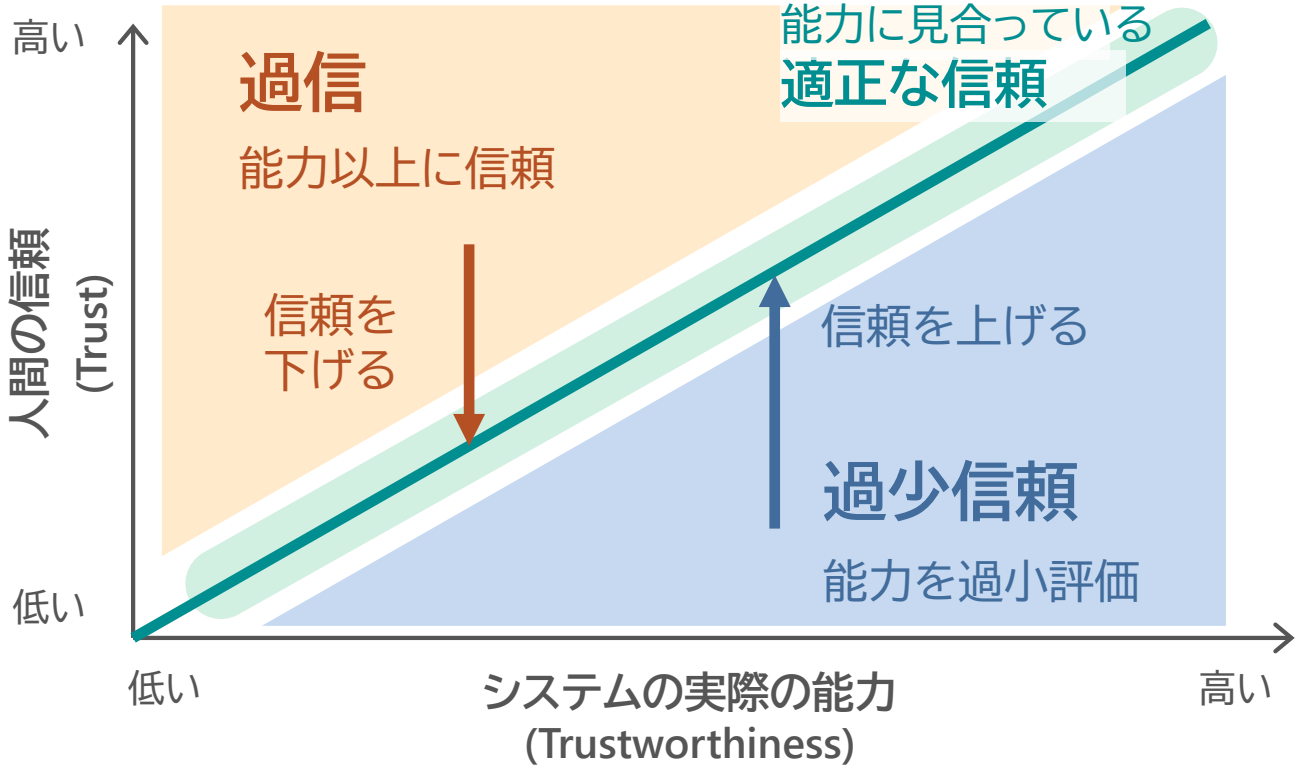
Hoff, K. A., & Bashir, M. (2014). Trust in Automation: Integrating Empirical Evidence on Factors That Influence Trust. *Human Factors: The Journal of the Human Factors and Ergonomics Society*, 57(3), 407-434. https://doi.org/10.1177/0018720814547570



© 2026 SECOM CO., LTD.

# Trust Calibration

## 信頼の高さ(能力に対する見積もり)を、システムの実際の能力に合わせる




図：Lee & See (2004), Fig. 2, p.55 を基に日本語で再構成。原図の「分解能」の説明は省略。

**過信→見積もりを下げる較正**

能力以上に信頼し、
任せすぎてしまう

**適正：能力に見合う信頼**

対角線上が、適切に
頼れる状態を示す

**過少信頼→見積もりを上げる較正**

能力を過小評価し、
活用できなくなる

システムの能力に対して、人間のtrust(見積もり)にズレがあれば、人間自身が
能力(に対する見積もり)を推定し直す。図の矢印は能力自体の変化ではない。

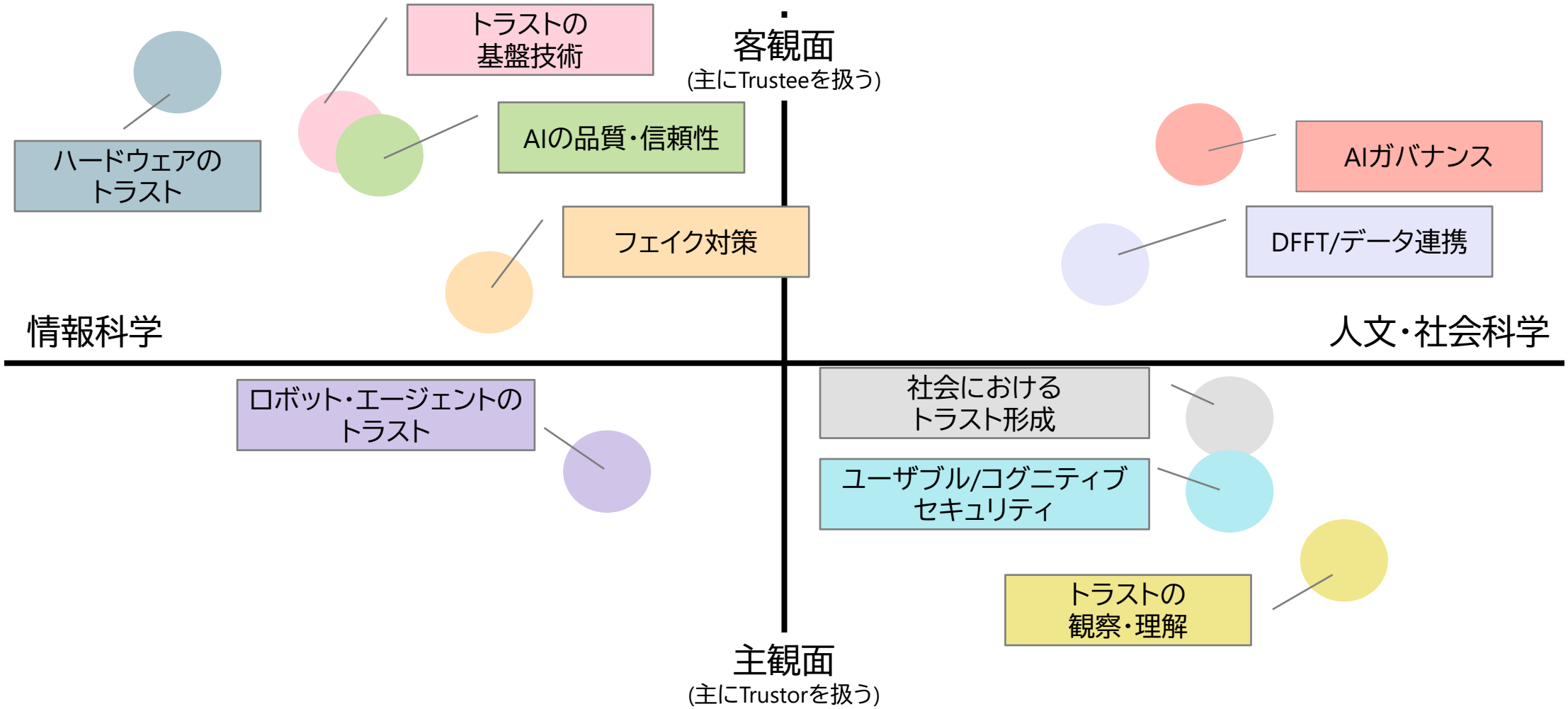
© 2026 SECOM CO., LTD.

# トラスト研究の俯瞰

© 2026 SECOM CO., LTD.

# トラスト研究の俯瞰図

- 近年のトラスト研究および関連分野について、情報科学と人文・社会科学、客観面と主観面から整理（各分野の詳細は次頁）。




図版生成の一部に生成AIを利活用しています

© 2026 SECOM CO., LTD.

島岡政基, 検証可能な信頼へ, 情報セキュリティ・セミナー, 日本銀行金融研究所, 2025年12月. https://www.imes.boj.or.jp/jp/conference/citecs/25sec semi02/25sec semi02.html

# （参考）各分野のトラスト関連動向の概観

| | |
|---|---|
| **ハードウェアのトラスト**<br>ハードウェアRoot of Trust、Trusted Execution Environment、リモートアテステーション等でシステム間の信頼関係を人間系の介在なしに検証・確立し、ゼロトラストやコンフィデンシャルコンピューティングへ展開。 | **トラストの観察・理解**<br>ABI（Ability, Benevolence, Integrity）モデル、SVS（Salient Value Similarity）モデル、主観確率、安心vs信頼・尺度など、心理・社会学系の尺度やモデルを総合。 |
| **トラストの基盤技術**<br>電子署名、タイムスタンプ、eシール、Webサーバ証明書等のトラストサービスによる本人／本物の真正性と改ざん耐性の保証。DID（Decentralized Identity）やVC(Verifiable Credential)、DIW(Digital Identity Wallet)などへの利活用。 | **ユーザブル／コグニティブセキュリティ**<br>人の認知能力等の脆弱性を突く攻撃への対処、使いやすさとセキュリティの両立、認知の傾向を踏まえた設計。ヒューマンファクタ、認知バイアス、セキュリティUX（User eXperience）、フィッシング対策など。 |
| **AIの品質・信頼性**<br>Trustworthy AI／AI ELSI（Ethical, Legal and Social Issues）、品質保証・説明可能性・公平性・安全性・プライバシーを総合的に扱う潮流。社会受容面のニーズも強く、活性度が非常に高い。 | **ロボット・エージェントのトラスト**<br>ロボット／エージェントと人間の信頼関係・受容・振る舞いの理解（Human Robot Interaction領域）。情報科学と人文社会の横断。非言語行動、信頼較正など。 |
| **フェイク対策**<br>ディープフェイクや偽情報に対する検知・検証の技術と運用。社会的な「よりどころ」形成と併せて重要。 | **DFFT（Data Free Flow with Trust）／データ連携**<br>信頼性のある自由なデータ流通を目指す政策・制度・基盤の整備。データガバナンスやID連携など、トラストの基盤技術の応用分野。 |
| **AIガバナンス**<br>技術だけでなく制度・ルール・ステークホルダーの関係性を設計し、トラストが社会へ広がる仕組みを整備。 | **社会におけるトラスト形成**<br>技術要素を社会に受容させるための「社会的よりどころ」づくり、制度・ルール設計、分野横断の総合知。 |



© 2026 SECOM CO., LTD.

# まとめ

- 不確実性：なぜトラストが必要か
- トラストとは何か：基本モデルと構成要素
- 検証可能性：システム信頼とセキュリティ技術
- 適切な依拠：人はシステムをどう信頼するか
- トラスト研究の俯瞰

- トラストは、**不確実性**がある中で相手に依拠する判断であり、認知によるギャップが避けられない
- **検証可能性**を与えるセキュリティ技術は、システムによるスケール可能なトラストを実現する
- **適切な依拠**を実現するには、検証可能性だけでなく、主観面の研究も欠かせない



© 2026 SECOM CO., LTD.

# 付録

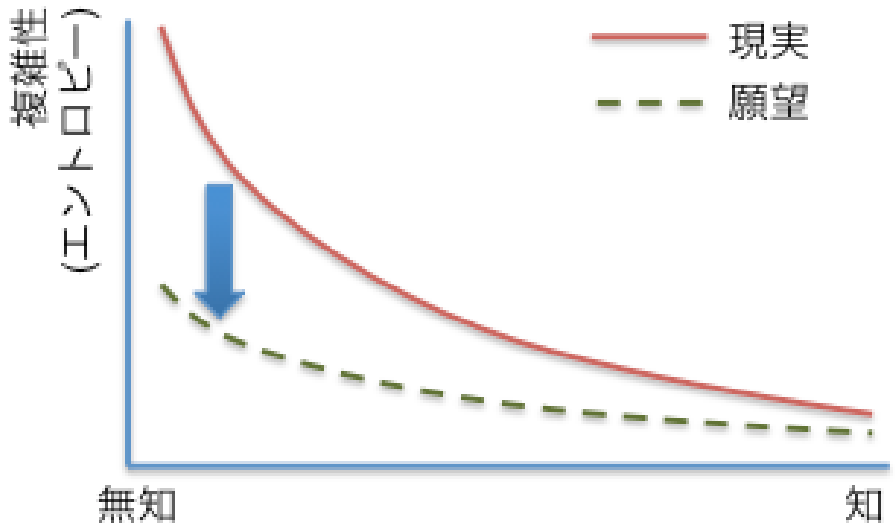
情報を更新できていないものも含まれているかもしれません。
修正すべき点があればご指摘いただけますと大変幸いです。

© 2026 SECOM CO., LTD.

# 社会学の古典的な議論

*信頼とは，**社会的な複雑性を縮減するメカニズム**のひとつである。*
*手元にある情報から**与えられた以上のものを引き出す**ことによって成立する。*
*― N. Luhmann (1973)*

- 社会システムの構造的複雑性→不確実性
- 不確実性を確実性に変換しているわけではない
- 複雑な社会関係を形成する要因としても作用する



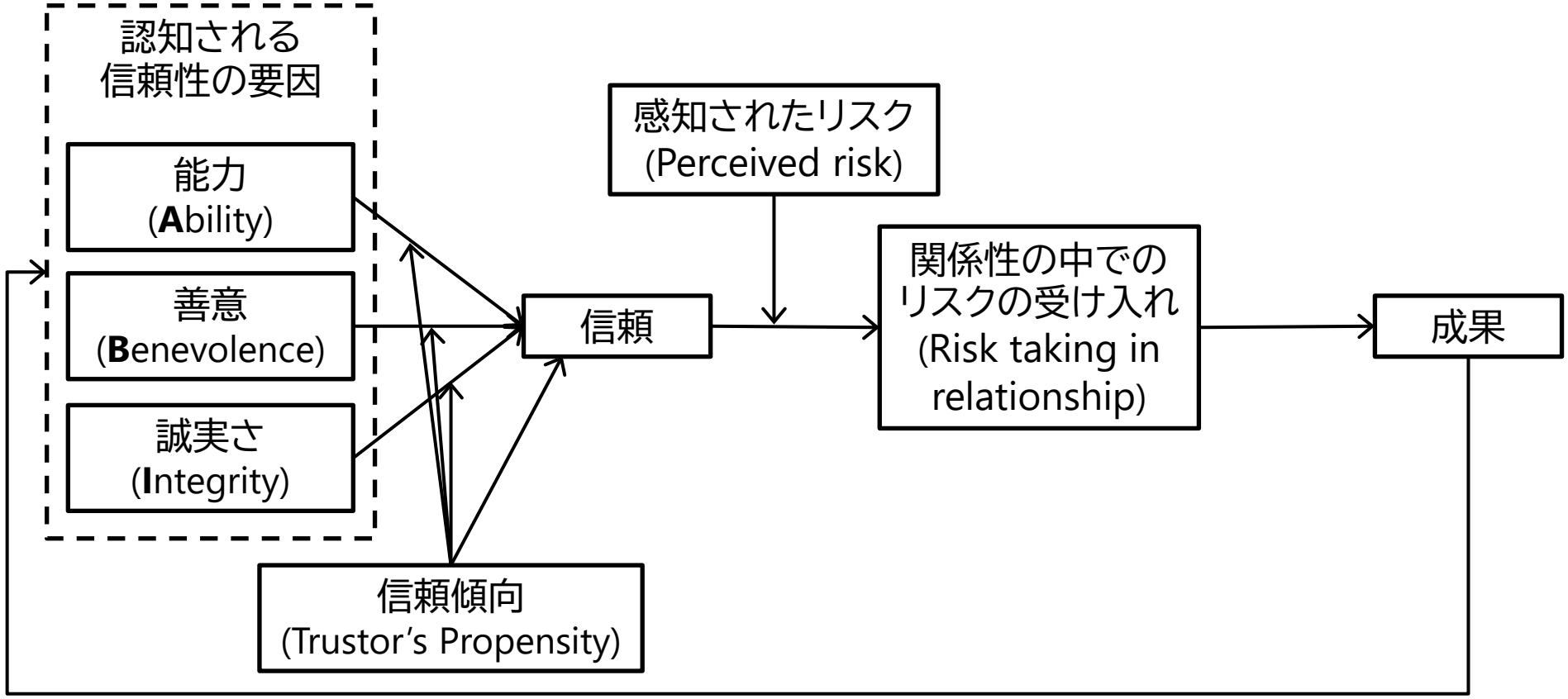

*人間についての**知と無知のあいだの中間状態***
*― G. Simmel (1900)*

- 社会現象の予測に必要な知識が欠如しているからこそ信頼が必要になる
- しかし何の知識もなしに相手を信頼することもできない

*確実なものと不確実なものの隙間を埋める力*
*― R. Botsman(2017)*

© 2026 SECOM CO., LTD.

# Mayerらの ABIモデル




相手側〔Trustee〕を監視またはコントロールできるかどうかにかかわらず、
相手が信頼する側〔Trustor〕にとって重要な**特定の行為をとる**という期待に基づいて、
相手側の行為に対して**リスクを受け入れようとする**〔Trustorの〕**意思**
(*willingness of a party to be vulnerable*)

Mayer, et al., *An Integrative Model of Organizational Trust*, The Academy of Management Review, 20(3), pp. 709-734, 1995.



© 2026 SECOM CO., LTD.

# 認知心理学とコミュニケーション





- 認知心理学
  - 人間が認知した情報をどのように処理するのか
    - 入力：感覚器官から得た情報
    - 出力：処理した結果にもとづく行動
  - 確証バイアス、ヒューリスティクス、期待効用理論など

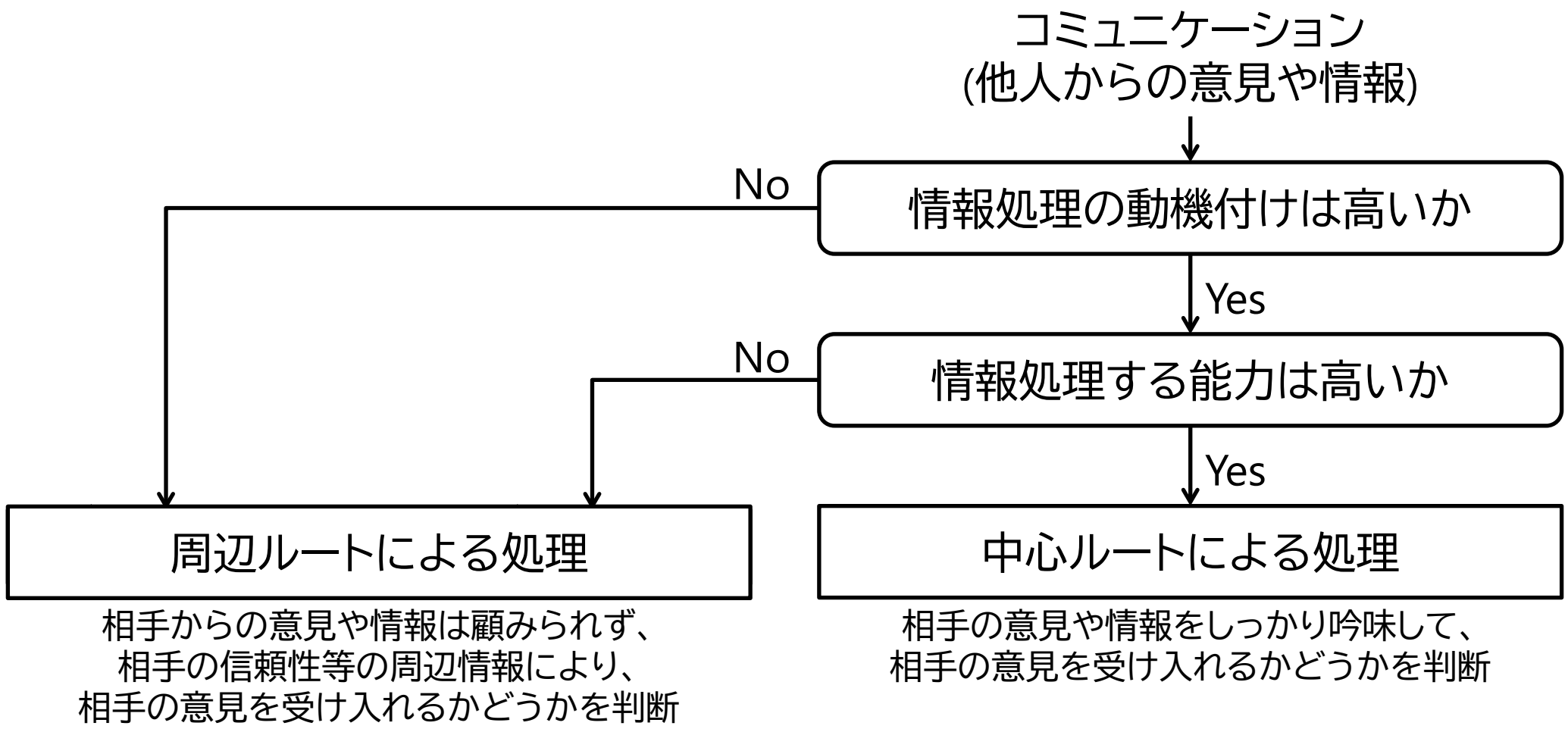
- コミュニケーションを対象とした研究
  - 精緻化見込みモデル(Elaboration Likelihood Model)
  - 二重過程理論の適用



© 2026 SECOM CO., LTD.

# 精緻化見込みモデル

## 説得コミュニケーションにおける聞き手の情報処理のモデル化




Petty, R. E., and John T. C., Attitudes and persuasion: Classic and contemporary approaches. Westview Press, 1996.
村山優子. 災害コミュニケーションの課題と今後. オープンソースカンファレンス2012 Iwate, 2012.

© 2026 SECOM CO., LTD.

# 二重過程理論

| | | |
|---|---|---|
| 名称 | • **経験的システム**<br>• 暗黙的モード<br>• システムⅠ<br>• 周辺ルート<br>• ヒューリスティック処理 | • **分析的システム**(合理的システム)<br>• 明示的モード<br>• システムⅡ<br>• 中心ルート<br>• システマティック処理 |
| 特徴 | • 感情志向<br>• 無意識的・自動的・直観的<br>• 具体的イメージや話に基づく判断<br>• 快・不快基準<br>• 全体論的で印象を重視<br>• 素早く、低負荷 | • 論理志向<br>• 意識的・制御的・熟考的<br>• 抽象的な確率や記号操作に基づく判断<br>• 正・誤基準<br>• 分析的で個々の論拠を重視<br>• 時間がかかり、高負荷 |

中谷内一也. 安全. でも, 安心できない...: 信頼をめぐる心理学. 筑摩書房, p.161, 2008.

人間は認知処理において、これらを本能的に使い分けている
(ある意味では感情的システムが支配的といえる)



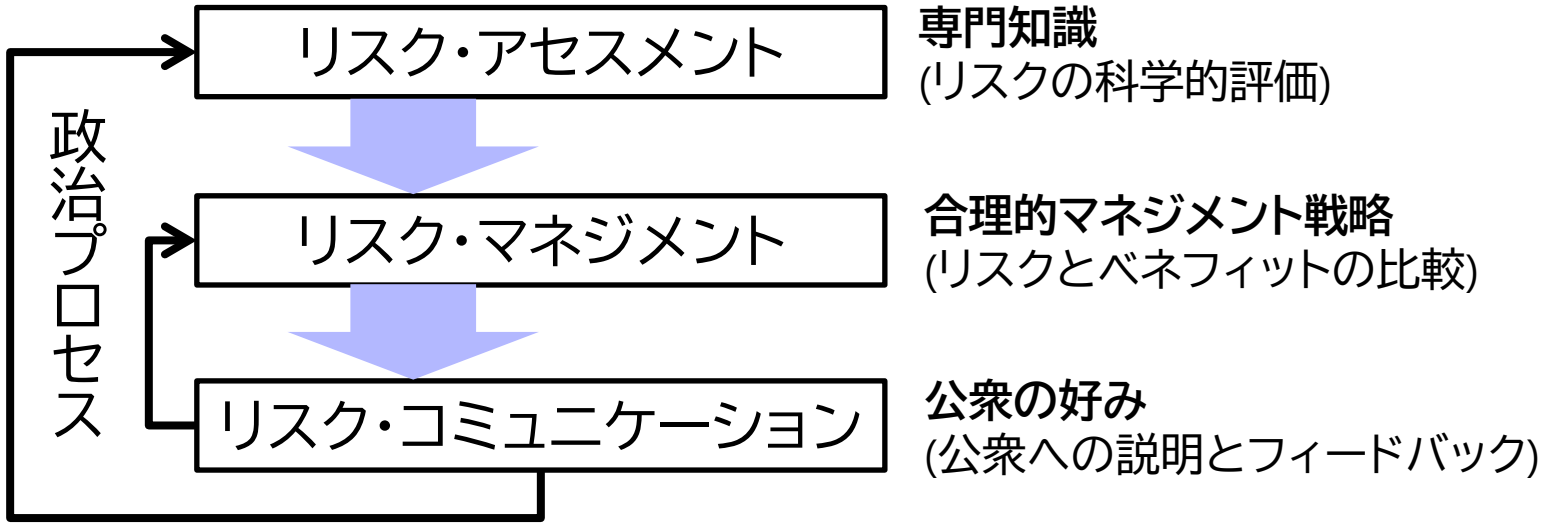
© 2026 SECOM CO., LTD.

# リスクコミュニケーション

リスクコミュニケーションの最終目標は、専門知識、合理的マネジメント戦略、公衆の好み(preference)の一致である。

出典：OECDワークショップ資料、化学物質リスク管理のリスクコミュケーション エグゼクティブサマリー, 2000

- 利害関係者間による受容境界の調整の議論
  - 意見の相互作用により規定因の認知が深まる
  - 信頼の形成(周辺ルートから中心ルートへ)と受容境界のギャップ解消

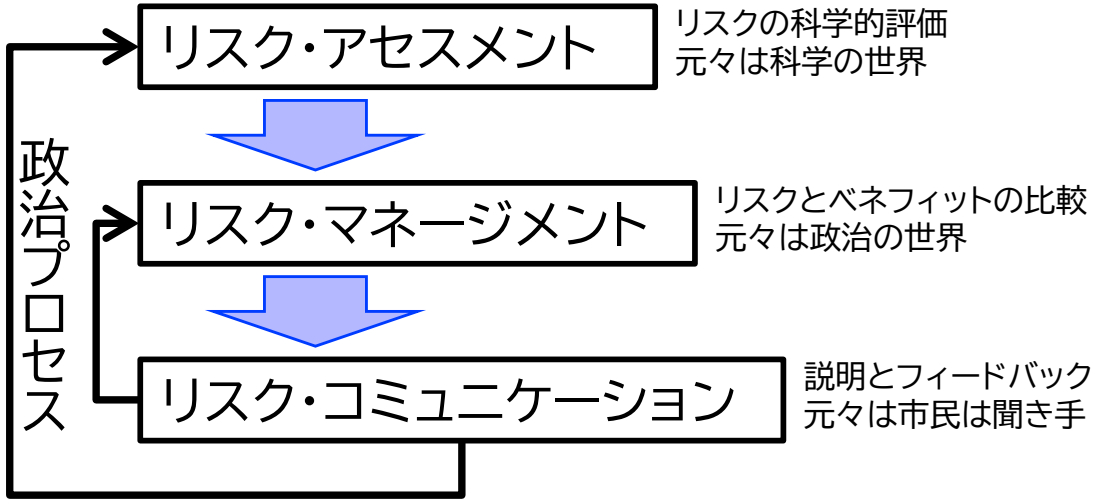



小川晴也, リスク・コミュニケーション・ギャップの分析手法: 【リスク管理者】が【リスク被受者】を理解するための指針, 北海道大学大学院国際広報メディア研究科, 学位論文, pp.3, 2008.(一部島岡が加筆)

© 2026 SECOM CO., LTD.

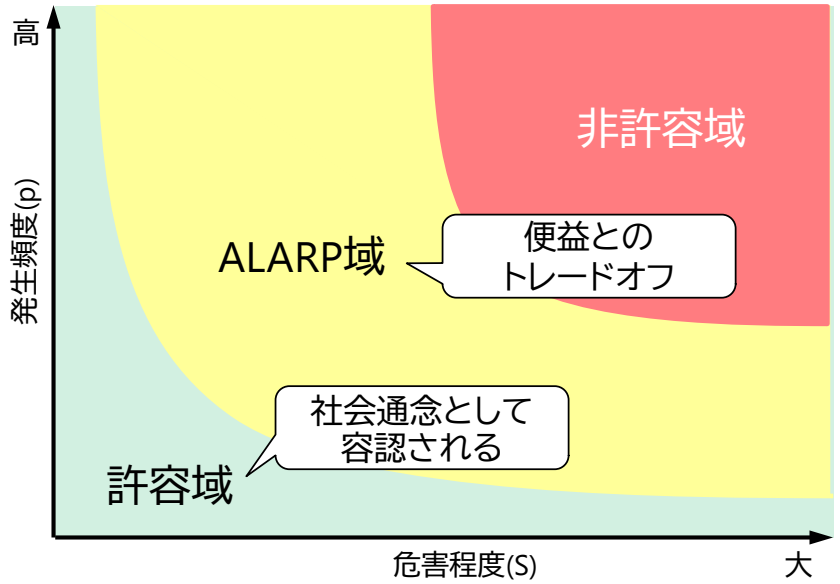
# リスクコミュニケーションとリスク受容

- リスクコミュニケーションを通じて、**ALARP域**の範囲を形成していくプロセス
  - どこまでが非許容域か、どこまでが許容域か
  - 専門知識、合理的マネジメント戦略、公衆の好みをそれぞれ近づけていく作業




小川晴也, リスク・コミュニケーション・ギャップの分析手法:【リスク管理者】が【リスク被受者】を理解するための指針, 北海道大学大学院国際広報メディア研究科, 学位論文, pp.3, 2008.

ALARP: As low as reasonably practicable




出典:JASA製品安全WG, 組込み系技術者のための安全設計入門, H20年度組込みシステムにおける機能安全に関する調査研究, 2008.

© 2026 SECOM CO., LTD.

# (参考)トラストに類似する概念・語句(1)

| 語句 | 考え方 |
|---|---|
| Reliability<br>(信頼性) | アイテムが、与えられた条件下で、与えられた期間、故障せずに、要求通りに遂行できる能力 |
| Dependability<br>(総合信頼性) | Reliabilityの上位概念。Abailability(可用性)やMaintainability(保全性)なども含む。 |
| Trustworthiness<br>(信頼性) | ステークホルダーの期待に検証可能な形で答える能力。<br>ReliabilityやAvailabilityのほかPrivacyやSecurityなど様々な品質特性を含む。 |
| 信用<br>(Credit) | 確かなものと信じて受け入れること。信頼(Trust)と比べると、過去・実績の評価という面が強い。 |
| 安心<br>(Assurance) | Trusteeが利他的な理由でTrustorを裏切らないのが信頼(恋人型コミットメント)であるのに対して、安心は利己的な理由による(ヤクザ型コミットメント)。<br>信頼の感情的な部分を指す言葉と捉える考え方もある。 |
| セキュリティ | 情報システム・サービスの安全性を確保するもの。一方、それらを安心して利用できるように信頼を確保するのがトラスト。 |



© 2026 SECOM CO., LTD.

# (参考)トラストに類似する概念・語句(2)

| 語句 | 考え方 |
| --- | --- |
| Distrust(不信) | トラストがTrusteeにポジティブな感情を持つのに対して、distrustはネガティブな感情を持つ概念。必ずしも同じ尺度での正負の関係にはないため、trustの対義語になり得ないので注意が必要。 |
| Absence of trust<br>(信頼の欠如) | Trustの対義(?)語。<br>Trusteeに対してポジティブでもネガティブでもないニュートラルな状態。 |
| Mistrust(誤信) | 意図せず信頼してしまう状態。 |
| Over trust(過信) | Trusteeの能力や意図を、Trustorの期待が上回っている状態。 |
| Under trust | Trusteeの能力や意図を、Trustorの期待が下回っている状態。 |



© 2026 SECOM CO., LTD.

# (参考) さまざまな分野の信頼の定義

| 分野 | 定義 |
|---|---|
| 経済学 | [信頼は]、1人ないし複数の行為者が特定の行為を遂行するという一定のレベルの主観的確率であり、彼らの行為をチェックすることができる以前に(あるいはチェックすることができる能力とは独立に)、その行為が自分自身の行為に影響を与える状況で形成される」(Gambetta, D (1988). Can We trust trust? In Trust: Making and Breaking Cooperative Relations: 217) |
| 経営学 | 「[信頼は]、他者の意図や行動についてのポジティブな期待に基づきリスクを受け入れる意図を含む心理状態である」(Rousseau, D., Sitkin, S., Burt, R., & Camerer, C. (1998). Not so different after all: A cross-discipline view of trust. The Academy of Management Review, 23(3): p.395) |
| 社会学 | 「[信頼は] 欠けている情報を内的に保証された安全性に置き換えるのであり、[自分に] 利用可能な情報を超えて、行動の期待を一般化することにより、社会の複雑さを減少させる」(Luhmann, N. (1979) Trust and Power: p.93) |
| | 「[信頼は]他者の誠実さや愛あるいは抽象的な原理への信念を表すような、人やシステムが一群の結果や出来事を実際にもたらすという確信」(Giddens, A. (1990) The Consequences of Modernity: 34) |
| 動物行動学 | 「信頼は、他者の誠実さまたは協力への依存、あるいは少なくとも他者があなたを欺かないという期待、と定義される」(de Waal, F. (2009). The Age of Empathy: Nature's Lessons for a kinder Society: 167) |
| 哲学 | AがBはCすると信頼するのは、(1) AはBがCすると期待し、(2) このAの期待 (1) が、Bが自分の関心を叶えようという動機に基づいているというAの信念か知識に基づいているとき (Hardin, R. (1991) Trust and Trustworthiness, Russell Sage Foundation) |
| | AがBはCすると信頼するのは、(1) AはBに重要事Cを任せ、(2) AはどのようにCを扱うのかのコントロールをある程度Bに許し (3) AはBがCを扱うことができると確信しており、(4) Aは自分に対するBの善意に確信を持っているか、少なくともBの悪意や無関心を予期しないとき (Bier, A. (1986) Trust and antitrust, Ethics 96) |
| | AがBはCすると信頼するのは、(1) AがBの善意に対する楽観的態度を持ち、(2) AはBの予期される行動Cに対するBの能力に対する楽観的態度を持ち、(3) Aは自分が頼りにすることを認識することによって直接BがCするように動機付けられると信じているとき (Jones, K. (1996) Trust as an Affective Attitude, Ethics 107) |
| | AがBはCすると信頼するのは、(1) AはCの配慮にあたってBがある社会的規範に内的にコミットしていると期待し、(2)Aは「BがCの配慮にあたってAによって想定されている社会的規範を認識し、また、その規範が何を要求しているかを理解することができる」と確信しており、(3) AはBが自分に課せられた規範にしたがって行為することができると信じているとき (Mullin, A. (2005) Trust, Social Norms, and Motherhood, Journal of Social Philosophy 36) |

俯瞰セミナー＆ワークショップ報告書：トラスト研究の潮流，国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター，図2-1-2, p.6，2021年2月.



© 2026 SECOM CO., LTD.

# 安心(Assurance)

- (狭義の)信頼：
  - 相手の善意や人間性にもとづいた協力的な行動を期待する
  - 特定の相手に依存することの危険性
  - 多様な関係性を持つことの健全性

利他的行動

- (狭義の)安心：

利己的行動

  - 協力しないと損をするので協力的な行動が期待できる
  - 村八分という社会システム(長期的な利害関係)による安心
  - 協力しないと(Trusteeが)損をする、ということをTrustorが知っている前提
- 解き放ち：脱安心→信頼できる社会へ
  - 安心は従前から関係性のある相手にしか期待できない
    - 既に相互の関係性を持っていることが前提
    - 社会的不確実性が小さい系に適している

互恵関係にもとづく
ムラ社会の文化

- 複雑化し流動的な社会に必要なのは安心ではなく信頼
  - 初対面の相手の能力や意図をどれだけ正しく知ることができるか

出典：山岸俊男, 信頼の意味と構造, 1995

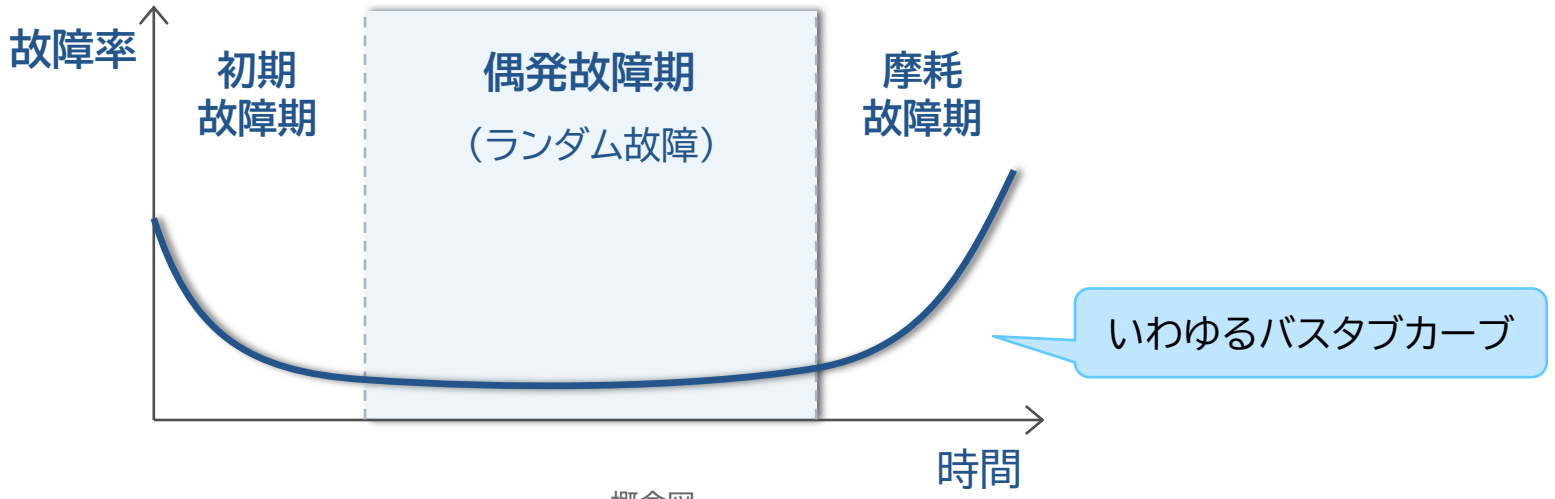
© 2026 SECOM CO., LTD.

# 信頼性(Reliability)

与えられた条件下で、与えられた期間、
故障/失敗せずに、要求通りに遂行できる能力

出典：IEC 60050-192:2015 Ed.1
International Electrotechnical Vocabulary part 192: Dependability

- 状況も期待も所与 (Trusteeのコミットメントや意図のない系)
- 多くの場合は確率論として論じることができる
  - 例) モノ・システムの信頼性




概念図



© 2026 SECOM CO., LTD.

# (総合)信頼性(Dependability)

必要に応じて実行する能力

出典：IEC 60050-192:2015 Ed.1
International Electrotechnical Vocabulary part 192: Dependability

- 総合信頼性は、アイテムの時間に関係する品質特性(*)に対する、包括的な用語として用いられる
  - (*) **Reliability, Maintainability, Availability**など

ReliabilityもDependabilityも能力に対する特性
(動機付けに対する特性ではない)
⇒裏切られることのない概念





© 2026 SECOM CO., LTD.